

令和 8 年度の校内研究について

1 研究主題

**自分たちの生活を自分事として捉え、共に創り出す学級活動の充実
～「折り合い」を付け、納得解を導き出す話し合いと実践の連動～**

2 主題設定の理由

本校では昨年度まで「話す聞く力の育成」を主題に、自分の考えをもち伝え合う学習活動に取り組んできた。その結果、全学級での「話型」の掲示やモデル動画の活用により、児童が自分の意見を友達に伝える力や、基本的な話し合いの見通しをもつ力に一定の成果が見られた。本年度は、この培った基盤をさらに発展させ、多様な意見を調整しながら集団としての「納得解」を導き出す実践力へと高めていく必要があると考えている。

教員への実態アンケートからは、児童が意見を出すことはできても、意見が対立した際に「折り合い」を付けることが難しいという課題が見られた。また、活動を「自分たちでやっていこう」ではなく「先生が言うならやろう」と人任せな面もあり、「児童が生活上の課題を『自分事』として捉え、自分たちの手で生活をよりよくしようとする主体性を育みたいという願いもあった。話し合いをまとめる力や、目標を最後までやり遂げる自治的な力を付けていくことが、今の本校の児童にとって必要である。

そこで本年度は、特別活動の研究 1 年目として、集団活動の核となる「学級活動（1）『学級会』」を中心に据えて取り組んでいく。特別活動の方法原理である「なすことによって学ぶ」に基づき、話し合って決める（合意形成）だけでなく、それを協力して実践し、振り返るという「自治のサイクル」を確立していきたい。児童が「自分たちの力で生活を創っている」という実感をもてるよう、事前・本時・事後の指導プロセスを一体的に研究していきたいと考えている。

学級活動（1）の研究を深めるにあたり、私たち教職員自身も、学級会の具体的な「流し方」や「指導の在り方」を一から共に学んでいきたいと考えている。低学年での教師が主導する形から、高学年での児童による自主的な運営へとつながる

「段階的な指導（スロープ）」の在り方を共通理解し、板書の構造化や効果的な指導助言のタイミングを検討していきたい。児童と共に教師も学び、あたたかな人間関係が育まれる学級集団を創り上げていくことを目指していきたい。

3 研究にせまる手立て

①みんなが「やりたい!」「よくしたい!」と思える議題と提案理由の工夫 (事前の活動)

児童が「自分たちの問題だ」と実感できるように、話し合う内容(議題)と、なぜそれをするのか(提案理由)を大切にする。

②多数決に頼らず、みんなが納得できる「決め方」の工夫(本時の活動)

「多い方に決める」だけでなく、反対意見や心配な意見も大切にしながら、みんなで「折り合い」をつける話し合いの形をつくる。

③決まったことを「やってみて」、成果をみんなで喜ぶ工夫(実践と振り返り)

「話し合って終わり」にせず、自分たちで決めたことを協力して実行し、「やってよかった!」と実感できるまでをセットにする。

4 研究関係日程

日		内容
4 / 15 (水)	全体会	講師講演会
5 / 20 (水)	分科会	目指す児童の姿、研究授業についての話し合い
6 / 17 (水)	研究授業①	2 - 1 黒澤学級
9 / 9 (水)	研推委員会	高学年指導案検討
9 / 30 (水)	研究授業②	5 - 2 山村学級
10 / 28 (水)	研推委員会	わかば学級指導案検討
11 / 11 (水)	研究授業③	わかば学級 1 組半田学級
1 / 20 (水)	研推委員会	成果と課題まとめ 来年度方向性を検討
2 / 24 (水)	研推委員会	来年度研究について 各学級の学級会報告まとめ

5 講師紹介

総合初等教育研究所教育アドバイザー

大妻女子大学非常勤講師

福田俊彦先生